

平成21年度

第10回 岸和田市丘陵地区整備機構協議会
～丘陵地区整備の仕組みづくりについて～

目 次

はじめに	1
1. まちづくりの流れと組織づくり	4
2. 地域資源に関するアイデア集	20
さいごに	28

平成22年1月28日

岸和田市丘陵地区整備機構協議会

はじめに

前回協議会ではハード面の検討を行い、様々な土地利用を行っていただけることを提案させて頂きました。

今回の協議会ではこれまでの検討を再度確認し、今後どのようにまちづくりの組織づくりを行うか検討を進めていきたいと思います。

《前回の協議会：丘陵地区では様々な土地利用が可能
(ハード面の検討)》

住宅地

商業地

業務地

農地

公園・緑地

自然保全地

調整池・ため池

《今回の協議会：これまでの検討状況の確認と
組織づくりに向けて》

● 機構協議会の役割と今後の課題

～第5回協議会資料より（平成21年3月24日）～

「組織作りの際に検討すべき課題」を整理させて頂いています。

2. 丘陵地区整備機構の設立に向けて

丘陵地区のまちづくりにおける機構の役割は重要ですが、機構を設立する際に前述のような多くの課題を抱えたままでは効果的な運営はできません。

具体的な検討として

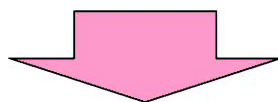
- ・各土地利用ゾーンへの土地交換・集約（第1段階）のルールとして土地評価方法をどうするのか？税の問題・課題をどのように解決するのか？
- 共同経営や賃貸等による有効な土地利活用をどのように図っていくのか？
- 丘陵地区に相応しい事業展開は？
 - ・「道の駅」とはどのように関わっていくのか？
- 地域資源である農業・自然をどのように活用していくのか？

また、丘陵地区の地域資源である“農業”や“自然”を活かして欲しいという要望や意見等が寄せられており、協議会で地区の整備に関して長期的な計画と現状の資源を使って土地活用できる短中期的な計画を行なうことが必要です。

「土地活用」「事業展開」「農業・自然の活用」
の3項目は関連性が深く、あわせて検討を進める必要があります。

● 本日のテーマについて

それぞれ個別の敷地ごとに「土地活用」「事業展開」「農業・自然の活用」を行うことも可能です。



しかし...

まとまって考えていくことにより、より良いまちづくりが可能であると考えます。

《メリット》

- ① 一つ一つは小さな取り組みであっても、それがつながることで新たな展開が生み出されていきます。
- ② より付加価値の高いまちづくりを行うことができ、それが収益性の高さへとつながります。

・本日の協議会は各地で地域住民がどのように自ら組織を作り、まちづくりに取り組んだのか、これまでの事例を再度見直していきたいと思います。

1. まちづくりの流れと組織づくり

(1) 農業を中心とした取り組み事例：上秋津地区 （第5回協議会で事例紹介）

上秋津地区ではどのように人々が集まり、まちづくりを行ってきたのか？



秋津野ガルテン(全景)



市民農園



農家レストラン



体験学習



1957年
(S32年)

社団法人 秋津野愛郷会

- ・村有財産の処分問題が持ち上がり、2年間の議論の末、財産を村民に分配せず、そこから得られた収益を地域全体の公益のためだけに使うことが決められた。
(自主財源の確保)

昭和の大合併

1974年
(S49年)

晩柑同志会

- ・危機感を募らせた20～30代の青年農業者有志が結集し、地域の生き残りを賭けた品種の導入・適応性検討組織を結成。(後に和歌山県果樹新品種研究同志会となる)

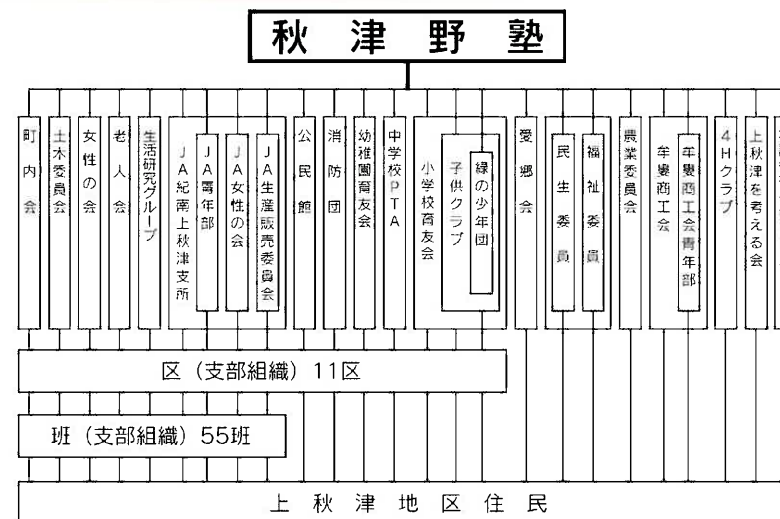
みかんの価格暴落

1994年
(H6年)

秋津野塾

- ・人口が増加し、農業振興地域に一般の家庭が混在するようになった。
それをふまえ、地域内の全組織・団体を網羅する地域塾が結成された。
- ・スピーディな決断で、新旧住民の交流を図る地域行事や地域づくりを推進し、都会にはない農村文化の土台が築かれた
(農林水産省 天皇杯受賞)

農業集落へ一般家庭増加



秋津野直売所 きてら

1999年
(H11年)

- ・ 地域住民の出資により資金調達。
- ・ 31人が一人10万円ずつ、計310万円、10坪のプレハブ店舗で事業スタート
- ・ 出資者は新住民も含まれている。
- ・ 3年後、4500万円の売上が達成。

2003年
(H15年)

- ・ 地域住民への出資の要請
 - ・ 地域外の出資を受ける応援団制度創設
- 新店舗と農産物加工工場を建設

2005年
(H17年)

俺ん家ジュース倶楽部
自前のジュース工場稼働で、キロ単
価の手取りが50～100円にアップ



2006年
(H18年)

農業法人株式会社 きてら

- ・ 株式会社へ法人化、年商1億円を突破



小学校移転

2002年
(H14年)

現校舍活用検討委員会

長い時間をかけ、跡地の利用方法が検討され、地域懇談会で話し合いが行われた。
財産管理法人である上秋津愛郷会の臨時総会を経て、田辺市から1億円で跡地を買い取ることが決定。

2007年
(H19年)

農業法人株式会社 秋津野

- ・ 体験交流型グリーンツーリズム施設「秋津野ガルテン」運営
- ・ 当初資本金：3300万円（翌08年に増資し、4180万円）
- ・ 株主数498人 地区内290人、1190株（議決権あり）
地区外199人、900株（A種議決権制限株式）
- ・ 役員2/3以上、株主の1/2以上を農業者で占める農業法人

2008年
(H20年)

「秋津野ガルテン」オープン

- ・ レストラン：当初来客見込み9700人/年 →開業から09年8月末で3万3000人
- ・ 宿舎：稼動状況は目標の90%、白浜・龍神温泉・熊野古道を訪れる際の安価な観光拠点として長期滞在者が増える。
- ・ みかんの木オーナー制度：3万円でオーナー、09年8月現在で330本 予定数達成
- ・ 市民農園：1区画30㎡、64区画。年間利用料3万円。
→宿泊券付6万円のプラン有り（10泊）

2009年
(H21年)

秋津野農民民泊の会

- ・ 09年9月に14軒の農家が営業許可を取得。本格的な農業体験を提供。
- ・ 修学旅行などの受け入れプラン準備中

《トピック 1：近畿の果樹オーナー制について》

近畿における果樹オーナー制(計31件)の価格比較を行いました。

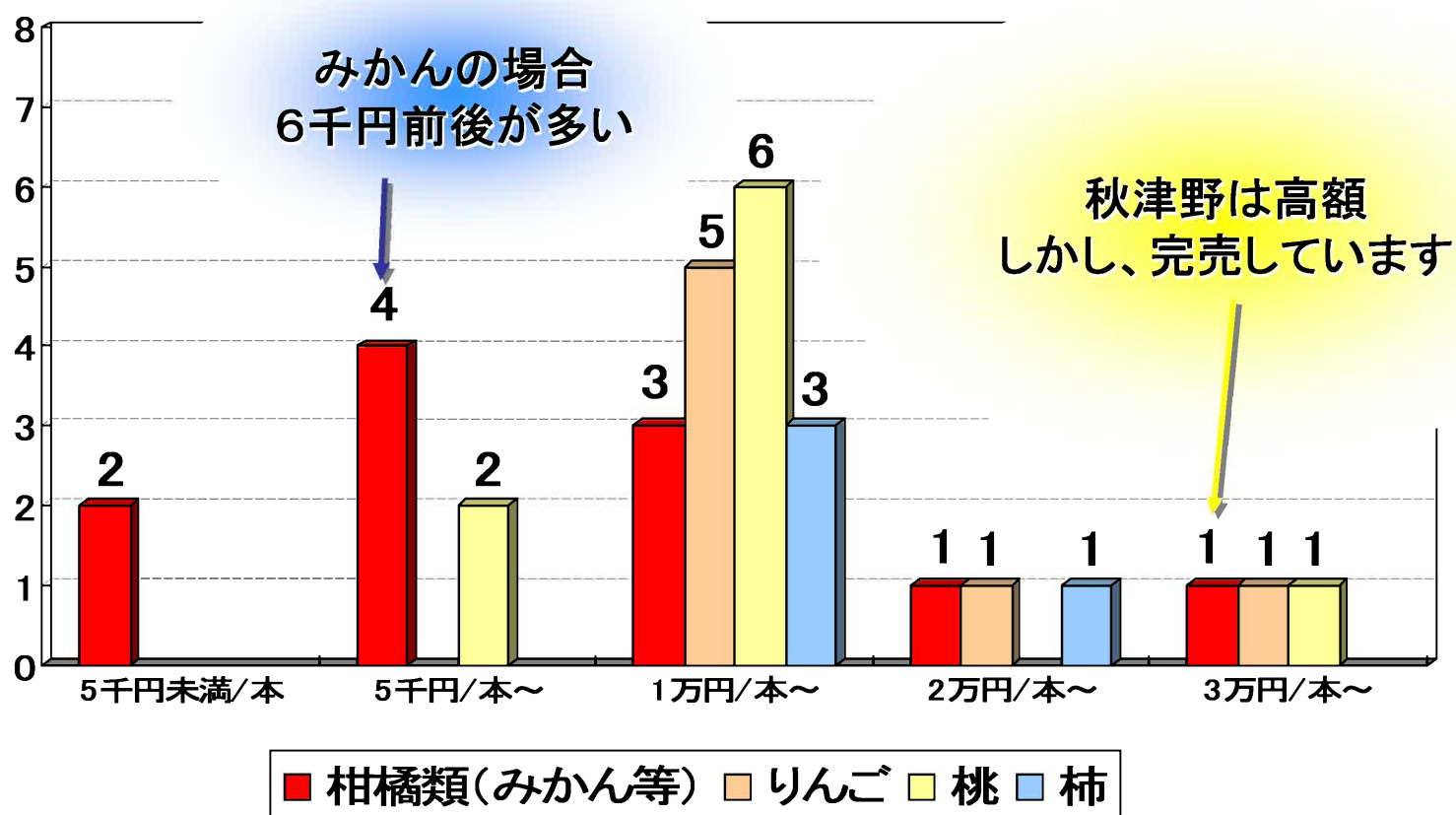


図 近畿における果樹オーナー制の価格分布

※果樹オーナー制は統計的資料が無い場合、インターネットによる調査を行いました。

● 上秋津地区：事例紹介のポイント



秋津野における取り組みは全国から注目されています。

農業法人を設立し、多様な事業展開を行っています。



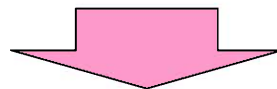
それは、地域の人々の身近な取り組みからスタートしています。

31人が一人10万円ずつ、10坪のプレハブ店舗で事業がスタートしました。

(2) 都市整備を中心とした取り組み事例：箕面市萱野中央地区

「箕面新都心」とは？

- ・箕面市萱野中央地区は大規模な国道が交差する場所に位置しています。
- ・地区内は市街化区域内に残された農地が大半で、放置すればミニ開発が進み、まとまりのないまちとなる可能性がありました。
- ・市全体として、「活気」や「賑わい」のある新たな交流拠点づくりが求められていました。



大きな特徴は、単なる基盤整備だけでなく、
市民・事業者・市の役割分担と協働により、魅力あるまちづくりを行ったことです。



《 実施された主な事業 》

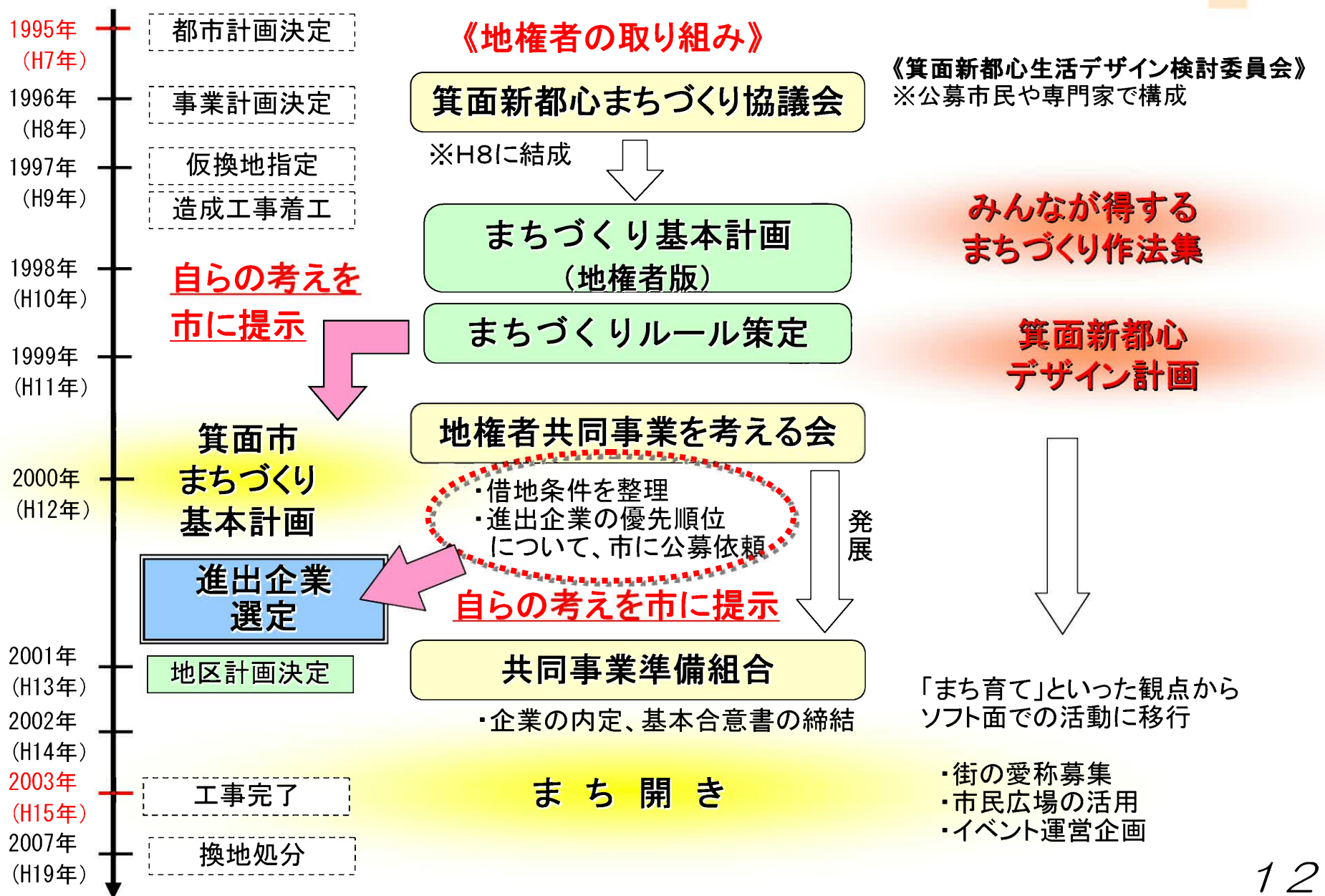
萱野中央特定土地区画整理事業／千里川親水河川移設事業／
都心ゾーンの整備(多機能型商業施設の誘致など)／ペディストリアンデッキの整備
交通広場の整備／公共空間の整備／木戸ヶ池跡地の整備

萱野中央特定土地区画整理事業

施行面積	22.6ha
施行期間	平成 8 年(1996年) 3月12日から 平成23年(2011年) 3月31日まで
減歩率	減歩率31.77% (保留地減歩含む)
総事業費	93.74億円
計画人口	2,300人
建物移転	事務所、居宅、 農小屋他



● まちづくりの流れ



● 萱野中央地区：事例紹介のポイント

「自分たちの街を自分たちでつくり、守る」
という考えのもとにつくられた「まちづくりの羅針盤」

- ・市よりも先に、地権者による協議会で「まちづくり基本計画（地権者版）」を作成し、自分達の考えを意思表示しています。
- ・自分達で「まちづくりのルール」を策定し、土地利用への制限を行っています。それが、以降付加価値の高いまちづくりの基礎となりました。
- ・進出企業を選出する際、借地料だけで決めるのではなく、提案内容を競わせる「公募型プロポーザル」実施を自分達で市に依頼しました。



新都心のイメージ（地権者版基本計画より）

みんなが得するまちづくり作法集

～「みんなが得をする」とは～

この街にかかわる人々がお互いにアイデアを出しあうことで
いっしょにまちの魅力を高めて、この街に住む人、働く人、訪れる人
すべてが「得をしよう」という意図で提案されました。

●まちづくりのテーマ

山にいだかれ、流れを大事にする、人が活きる街・かやの

●まちづくりの作法(キーワード)

○基本的な作法

環境を活かす／バリアフリーを進める／安心感と暮らす／土に親しむ

○街の作法

山並みを活かす街をつくる／緑を育てる／千里川は街の思いを映す／人のスケールに合わせる
／御堂筋と一体となる／成長のあかしとなる／昔の記憶を伝える／にぎわいを楽しむ／暮らしと
職場が共生する／くつろぐ／音の風景をつくる／夜を演出する／駐車場を工夫する／街を歩く、
自転車で行動する／街角で人が風景になる

○敷地と建物の作法

歩く目標をつくる／花や実のなる木を使う／水を活かす／身近な花を育てる／街並みをつなげる
／境界を工夫する／働く姿を見せる／自然な素材を使う／細部に気を使う／内と外をつなげる

土地利用を考えると、街全体の「まちづくりテーマ」を実現するために、それぞれの施行者に
創意工夫を凝らしてもらうための素材集。

※抜粋整理

《トピック2：その後のまちの様子「まんどろ火祭り」》

かやの中央のまち開き後、2004年に新しい形で復活しています。



「ま〜んど〜ろ、火い〜ともせ！」かけ声とともに提灯とたいまつが千里川沿いに行列。
まんどろは、箕面の萱野に300年ほど前から伝わるお盆の火祭り。里山文化や愛宕信仰、お盆に関連することが込められ、かつては萱野の各地で行われていました。かやの中央のまち開き後、2004年に新しい形で復活してからは毎年この時期、かやの中央まち育て交流会などの主催で実施されています。小さな子どもたちは提灯を持って、おにいちゃん・おねえちゃん、子どもたいまつ、そして大人たいまつの行列。クライマックスは大たいまつ。天秤に担ぎ、クルクル回ったり、走ったり圧巻です。箕面の文化が脈々と受け継がれています。

(3) 組織づくりについて

・組織には様々な種類があります。

例えば身近なところでは・・

日常的な地域の取り組みを行う	→ 自治会・町内会
地域の農業や用水の管理を行う	→ 農事実行組合・水利組合
収益性のある農業を行う	→ 農業法人
共同で農業を行う	→ 農事組合法人

以下の組織もよくあると思います・・

企業として収益活動を行う	→ 株式会社・有限会社
社会に貢献する活動を行う	→ NPO法人、社団法人

組織には目的にあわせた形があります。



- ・本日の2つの事例では、いずれの地域でもその時の目的に合った組織を作りながらまちづくりを進めていることがわかります。

《上秋津地区の場合》

- | | | |
|-------------------------|---|--------------|
| ・村の財産を公益のために使いたい | → | 社団法人 秋津野愛郷会 |
| ・新品種の導入をみんなで考えたい | → | 晩柑同志会 |
| ・多様化する地域みんながまとまるようにしたい | → | 秋津野塾 |
| ・みんなで直売所をより拡大していきたい | → | 農業法人株式会社 きてら |
| ・みんなで小学校跡地を使って体験施設を作りたい | → | 農業法人株式会社 秋津野 |



《萱野中央地区の場合》

- ・自分達でまちをどうしたいか言いたい → 箕面新都心まちづくり協議会
- ・どのような企業に進出してほしいか言いたい → 地権者共同事業を考える会
- ・進出した企業と契約していきたい → 共同事業準備組合

(4) まとめ

「農」と「都市」、それぞれの事例通じて、まちづくりの取り組みを検証させて頂きました。

最も大切なことは、小さな取り組みから始め、それを積み重ねていくことであると考えられます。

- ・これから小さな取り組みを積み重ねることが大切です。

また、色々な人に関わってもらう必要があります。（例えば、PR活動など）

→丘陵地区整備機構の役割とはその受け皿になることもできます。

- ・これから取り組みを始めるには、まず身近な地域資源を活用することが考えられます。

次に、身近で活用できそうなアイデアについてご紹介させて頂きます。

2. 地域資源の活用に関するアイデア集

地域の魅力を体験し、住む人々と交流を行う観光ツアーが行われています。

例①: 果樹園(みかん)を活用

温州みかん総採り収穫隊 (株式会社 農協観光)

例②: 竹林を活用

タケノコ掘り体験・カブトムシツアー

(田舎を元気にする起業家集団つばさプロジェクト)

※地元の方たちと一緒に体験ツアーを企画している。大阪府八尾市

耕作放棄地を様々な方法で開墾する取り組みが行われています。

例③: 耕作放棄地を活用

クボタeプロジェクト(株式会社 クボタ)

牛レンタル(香川県農政水産部畜産課)

例①: 果樹園(みかん)を活用



「グリーンツーリズム」という言葉。
株式会社 農協観光

NtourはJAグループの一員です。

食の素顔にふれてみよう

ホーム | 自然・農業体験ツアー | 交流の旅 | 第6回・温州みかん総採り収穫隊

[トップへ戻る](#)

2009/12/19(土)第1班・2009/12/20(日)第2班

千葉県・鴨川 援農ボランティア募集！温暖な南房総・鴨川にて

[バスプラン](#) [日帰り](#)

第6回・温州みかん総採り収穫隊

お一人様3,700円(大人限定)

発着地

秋葉原駅

[ポイント](#) [スケジュール](#) [旅行代金・ご案内](#) [お問合せ・お申込み](#)



■おすすめポイント

● 温暖な南房総・千葉県鴨川市は温州みかんの産地でもあり、秋ともなると黄色く色づいたみかん畑が山間のあちこちに望めます。しかし、近年、みかんの産地としてのかつての勢いはうすれ、多くの農家は高齢化とともに生産維持が難しくなっており、収穫作業にも苦勞しています。みかん畑を放っておけば木にとってもよくありません。しかも山が荒れると里山の環境も保てなくなります。そこで、今年も収穫をお手伝いしていただくボランティアを募集します。援農隊の皆さん！みかん農家で収穫作業をして、みかん山の保全にご協力ください。



■旅行代金・ご案内

■出発日:2009/12/19(土)第1班・2009/12/20(日)第2班

■旅行代金:お一人様

	区別	旅行代金
日帰り	大人	3700円

■添乗員:添乗員は同行いたしません。が、(社)全国農協観光協会事務局が同行します。

■募集人員:35名様

■最少催行人員:30名様

■食事条件:昼1回

■スケジュール

■行程表

1日目

秋葉原集合出発(7:30)※貸切バスにて == 鴨川市到着(10:00) == 到着後、オリエンテーション == 夕方まで各農家でみかん収穫作業、他農作業(昼食は現場で弁当) == 夕方、農家との交流会 == 鴨川市出発(17:30)※貸切バスにて == 秋葉原到着後、解散(20:00)

食事/朝:× 昼:○ 夕:×

※農作業内容は天候の影響や生育、畑の状況、農作業上の都合により変更となる場合があります。行程時間は交通事情等により変更となる場合があります。

※株式会社 農協観光
ホームページより

2010/01/13(水)限定

千葉県鴨川市 水仙ウォーク自然散策とミニ援農体験参加者募集！南房総鴨川の隠れ里

バスプラン 日帰り

第7回水仙の郷ウォークと八朔収穫ミニ援農体験 第1班

お一人様 4,500円(大人限定)

発着地 秋葉原

ポイント スケジュール 旅行代金・ご案内 お問合せ・お申込み



おすすめポイント

●千葉県鴨川の山間にひっそりたたずむ集落(山田・法明地区)は人知れぬ水仙の郷です。耕作放棄となった田んぼや草地、山の斜面など、放っておけば荒れていく里山を守るため、集落の人々が植えた水仙は時期になると見事に咲き誇り、周辺には甘い香りが漂います。また、この集落には温州みかんや八朔の畑が点在し収穫期は黄色く色づきますが、十数戸の集落は高齢化が進み、畑の維持も一苦労です。そんな集落の人々と里山の環境保全などを語り交流しながら、自然を楽しみましょう。

●①八朔農家で収穫援農ミニ体験。 ②懐かしい焚き火で焼き芋。
③囲炉裏を囲んでの交流。

●④里山ウォーク。 ⑤地元のおかあさん方による手作りの昼食をいただきます。

●【第2班・1月16日(土)】の設定もございます。詳細はこちらをご覧ください。



水仙の郷ウォーク(イメージ)

旅行代金・ご案内

■出発日:2010/01/13(水)限定

■旅行代金:お一人様

	区別	旅行代金
日帰り	大人	4500円

■添乗員:添乗員同行いたしません

■募集人員:40名様

■最少催行人員:30名様

■食事条件:昼1回

スケジュール

■行程表

1日目

秋葉原発(7:30)=バス=鴨川・みんなみの里へ(10:00) 若後、ウォークスタート 八朔農家で収穫ミニ援農体験 焚き火の焼き芋、囲炉裏を囲んで地元の方との懇談、昼食。水仙園、1まけ除け地蔵などを回る。鴨川・みんなみの里発(16:00)=バス=秋葉原解散(18:30)

食事/朝:× 昼:○ 夕:×

※ウォークは未舗装部分や傾斜のある丘陵で3~4kmのコースになります。

※株式会社 農協観光
ホームページより

- ・ 収穫を行うだけでなく、里山ウォークやたき火・交流などがセット
- ・ 満員御礼



特集・新着情報

お出かけ情報

Project進行中

ツアーレポート

ゴローがゆく

田舎の写真集

つばさプロジェクト

ご利用規約

お問い合わせ

2009年4月18日(土)

タケノコ掘り体験2009

今年も和歌山県海南市へタケノコ掘り体験にやってきました。
20名様に参加されましたが、今日はお天気もよくベストコンディションですよ。

※左から右へ進んで下さい。



毎度おなじみかみかわい商店さんに到着。今日もここが活動拠点です。



かみかわいさんから徒歩8分のタケノコ山へ移動。



こちらでは出荷用のタケノコを栽培されておられるので、山も明るく歩きやすい。



さっそくタケノコ掘りがスタート。初心者の方もベテランの方もいらっしゃいました。



これくらい頭を出しているタケノコが大きさも味もちょうど手頃かな。



この日はお天気が良過ぎて暑いくらいでした。半袖姿になるお子さんも。

- ・ 筍掘りツアー
- ・ 掘った筍をその場で食べる。



タケノコ、採ったぞー！！



私にも採れたぞー！



本日の収穫。皆さん両手いっぱいのおみやげをゲットされました。



お屋になるとかみかわいさんのお庭でタケノコバーベキュー。



ごさの上で焼いたタケノコとゆがいたタケノコを味見しました。最高でした。



村のおじいちゃんがタケノコの皮のむき方を指導してくれました。

タケノコ掘りは予想以上に重労働です。
大人の皆さんはビールも飲んで、午後のお昼寝タイム。
子供たちは少し遊び足りなさそうでしたが、三つ葉やワラビも採れたので今回はこれくらいで勘弁してください。

※つばさプロジェクトホームページより

2009年7月25日(土)
(ほか)

カブトムシツアー2009



野生のカブトムシさがし

今年も山でカブトムシさがしを行いました。
長かった梅雨と台風の影響も受けながら、今年はちょっと苦戦しました。

※ 左から右へ進んで下さい。

- ・ カブトムシツアー
- ・ バーベキューとセット



今年のカブトムシツアーは夕方集合です。
夕焼け空がキレイ。



先に夕食をいただいて、暗くなってから
出発です。



今年も農家民宿にしみねさんのお家で
バーベキューです。



午後8時。ムシやハチに刺されないよう
に長袖長ズボンに着替え、懐中電灯を
持ったらいざ出発です。



クヌギやコナラの木を懐中電灯で照らし
ながら、カブトムシをさがします。木の周
囲360度、全部見て下さい。



「あっ、いた！」
男の子の視線の先にはメスのカブトム
シが。



手の届く高さで見つけたら、網を使わず
に素手で捕まえて下さい。意外とすばや
く飛んで逃げてしまいます。



こっちがオスだ！やっぱりカブトムシは
オスのほうが人気ありますね。



野生カブトムシはすごいパワーを持っ
ています。虫がこのフタを自分で開けて逃
げちゃうこともありますよ。



8月9日は台風接近のため山に行け
ず、富生村のカブトムシファームでおみ
やげをいただくことになりました。



外は滝のような大雨。こんな日もありま
す。すいません。



雨はともあれ、今年は参加された全員
がおみやげを持って帰ることができまし
た。めでたし。

7/25、8/8、8/9の3回開催。3回分の写真をまとめて掲載しています。

例③: 耕作放棄地 を活用

クボタeプロジェクト

[みんなの農業広場トップページ](#) > [クボタeプロジェクト](#) > [取り組みレポート](#) > 耕作放棄地を
市民農園に変え、都市住民と交流を！（茨城県つくば市）

■ 耕作放棄地を市民農園に変え、都市住民と交流 を！（茨城県つくば市）

2009年12月24日

茨城県つくば市平沢地区は、茨城県南部の筑波山麓の山裾に広がる田園地帯である。平沢官衙(かんが)遺跡や筑波山などの観光・歴史資源がある農村集落だが、圃場整備が十分でなく、高齢化が進んでいるため、耕作放棄地が年々増えている。

そこで平沢地区では、「平沢地区農業振興推進協議会」を立ち上げて、10年以上耕作放棄された畑地約0.6haを活用し、市民農園をつくることになった。この市民農園に都市住民の参加を呼びかけ、栽培の指導や各種イベントを行って、地域の人たちと交流することで地域を活性化しようと考えている。



左：20年程度耕作放棄された圃場1では、手前の道路にもシノ竹が密生

右：圃場2には、ススキ、セイタカアワダチソウ、灌木などが繁茂



左：圃場1では、繁茂したシノ竹が細断されていく



右：シノ竹刈取り後のブラウ耕。強く密生した地下茎に悪戦苦闘



左：ブラウで反転しない部分は、建機で作業



右：シノ竹が密生した箇所は、整地作業を来春に持ち越す



左：圃場2では、まず雑木を抜根



右：抜根した雑木を収集し、処分

地域の関係者からは、次のような感想の声やコメントがあった。

「放棄地を解消し、地域を活性化したいと皆で話し合ってきたが、農地の再生が一番困難な問題だ。eプロジェクトには本当に感謝したい」「事前に私達が行ったアクセス道路の草刈だけでも、10人でまる1日かかった。それに対して、シノ竹や雑草の繁茂する耕作放棄地を一気に再生する大型機械のスピード、パワー、能力、技術には本当に感激した。景観も土地も良いので、再生した農地を市民農園や各種イベントなどに大いに活用して、皆に喜んでもらいたい」(協議会構成員)

「この取組みをきっかけに、地域の耕作放棄地解消の運動が広がっていくとよい。大型機械による草刈りは、草を持ち出し処分する必要が無いこと、リバーシブル・ブラウの効率的な往復作業、鋤き込んだ草を掻き出さないリバーチカルハロー耕など素晴らしく、良い勉強になった」(茨城県県南農林事務所職員)

「地元では、コンボなど建設機械による放棄地再生の方法しか考えつかなかったが、ここでは、将来の利用方法などにも配慮した再生方法を企画していただき、ありがたかった」「大型農機による放棄地の再生を見るのは初めてで、効率的な作業に驚いた。今後、再生・利用を進める上でも、ぜひ力を貸してもらえれば、ありがたい」(つくば市農業課担当職員)

一部のシノ竹が密生した農地では、年内にブラウ耕まで行い、冬場の乾燥でシノ竹等雑草が枯死するのを待って、来年の春に砕土・整地を行う。その後、引き渡されることになっている。

再生後の農地では、協議会がそばなどを栽培して雑草対策を行ってから、市民農園に整備して、貸し出される予定だ。(みんなの農業広場事務局)

※株式会社クボタ ホームページより

飼料生産サポート事業

(1)事業内容

認定農業者及び営農集団等に県有放牧牛及び簡易牧柵等を貸し出すことにより、自給飼料生産基盤を拡大し、酪農及び肉用牛経営の振興並びに高齢化等に伴い増加している耕作放棄地の解消を図る。貸し出す牛は、畜産試験場において放牧馴致や分娩管理等を行う。

(2)事業期間

平成20 年度～平成22 年度

(3)21 年度事業内容

・飼料生産サポート(レンタル放牧牛)事業

①放牧牛等の馴致

畜産試験場において、放牧に適した馴致を行う。

②放牧牛等の貸し出し

耕作放棄地等の解消のために、牛による放牧を希望する者に対して、放牧牛及び簡易牧柵等の貸し出しを行う。

※香川県ホームページより

餌代軽減、景観保全／耕作放棄地に牛レンタル

2008/11/15 10:05

[メールで記事を紹介](#) [印刷する](#) [一覧へ](#)

香川県内で増え続ける耕作放棄地の有効利用策として、県は牛を放牧して雑草を食べさせる新たな取り組みをスタートした。自生した草は牛の餌となるため餌代軽減につながり、土地所有者にとっても労せず管理できるなどのメリットがある。県畜産課は「荒れ地の解消はイノシシなど有害獣対策や景観保全にも有効。成果を見て事業を拡大していきたい」としている。

県が本年度から取り組む「飼料生産サポート事業」の一環。現在、モデル事業として高松市香川町の私有地(51アール)に、県畜産試験場で訓練した雌牛2頭を放牧している。

放牧地は急斜面のある山間部。人力や機械を導入しての草刈りなどの作業は困難な場所だが、牛は悠々と歩き回り、生えた草を食ひ、人に代わって“お手入れ”に役買っている。

レンタル料は、牛2頭(1カ月)と保険料で1万8000円。柵や飲み水施設は県が提供する。県内では牛を放牧している畜産農家が少ないため、当面は県が訓練した牛を耕作農家に貸し出すが、将来的には、畜産農家と耕作農家のマッチングに発展させていく考え。

同課によると、県内で田畑や果樹園として利用可能な耕地面積(2005年度調べ)は2万6721ヘクタールで、うち15・1%に当たる4755ヘクタールが放棄地となっており、後継者不足などで年々増加しているという。



山間部の荒れ地で草を食み、人に代わって手入れをしている放牧牛
＝香川県高松市香川町

さいごに



丘陵地区で「みんなでどのようにまちづくりを行いたいか」
にあわせ、組織（機構）の形があると考えられます。

みんなで〇〇〇がしたい
みんなで〇〇〇が言いたい
みんなで〇〇〇を考えたい



丘陵地区整備機構

※2つの地域の事例から考えられるアイデア

例) みかんオーナー制や直売所への出荷のため、「農業法人」を作る。

例) どのような企業に進出してもらいたいかに提言するため「考える会」を作る。